

芸術と自然 美濃加茂市民ミュージアムの現代美術レジデンスプログラムを振り返る

会 期：2025 年 2 月 22 日（土）～3 月 23 日（日）〈32 日間〉

会 場：企画展示室、美術工芸展示室、展示ホール

展示点数：芸術と自然 計 17 点

林武史ドローイング展 計 31 点

観 覧 料：無料

入場者数：1168 人



【内容】

2000 年 10 月、美濃加茂市民ミュージアムは開館記念展として「芸術と自然 若林奮・大久保英治・山口啓介」を開催し、翌年から「芸術と自然」を主題にした美術家の滞在制作や成果発表の展覧会やワークショップ等を毎年続けてきました。敷地内にはアーティスト・インレジデンスを目的として設置した宿泊アトリエ棟があり、多くの作家がここを拠点に滞在制作をしました。

当館は森の中に立つ総合博物館です。招へいた作家の多くは周囲の森の空間での展示、生息する植物を素材に使った作品の制作やワークショップを考え出しました。また、考古・歴史・自然・民俗など美術以外の分野も対象とする当館の性質を生かして、他分野の学芸員が関わりつつ作家独自の考えから多様な資料を提示する試みも行いました。作家たちはそれぞれの視点から美濃加茂の自然や風土、歴史に向き合い、ここでしかできない様々な展開を見せてくれました。

2025 年、当館は開館 25 周年を迎えます。そこで開館から昨年度までの現代美術レジデンスプログラムを振り返り、収蔵する参加作家の作品を展示し、各年度に行ったワークショップや制作展示の様子を振り返るパネル展を開催しました。

また同時期に「特集 林武史ドローイング展」を開催しました。2020 年度に招へいた岐阜市出身の彫刻家・林武史の企画展開催の前後に作家から寄贈・寄託を受けた、石の彫刻制作に関わるドローイングの数々を紹介しました。また、2020 年度の林武史展の準備期間はコロナ禍に重なっていました。この時期に東京藝術大学の教え子と共に取り組んだリレー・ドローイングを併せて展覧しました。

【関連事業】

□林武史アーティストトーク

2 月 22 日（土） 13:30～14:30 参加者：20 人

講 師：林武史氏 会 場：美術工芸展示室

□ミュージアムトーク

2 月 24 日（月） 10:00～11:00 参加者：4 人

講 師：当館学芸員 会 場：企画展示室・美術工芸展示室・展示ホール・緑のホール

□大北利根子ワークショップ「シルエットを文化の森に」

3 月 2 日（日） 13:00～16:00 参加者：19 人

講 師：大北利根子氏 会 場：エントランスホール、企画展示室

□阿曾藍人アトリエ見学

3 月 9 日（日） 13:00～15:30 参加者：14 人

講 師：阿曾藍人氏 会 場：企画展示室、阿曾藍人アトリエ（市内蜂屋町）

□ナイトミュージアム

3月20日（木・祝）17:00～20:00 参加者：21人

【展示品】

【企画展示室】芸術と自然

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	小本章	美濃加茂市民ミュージアム 庭 春／夏／秋／冬	2003（平成15）年	38.0×90.0 （4点）	ガッシュ、画布／プリント、 印画紙、アクリル板
2	阿部大介	Skin of Tree 07	2015（平成27）年	168.0×152.0	木、油性インク、紙
3	阿部大介	Skin of Tree13	2015（平成27）年	98.0×58.0× 24.0	木、油性インク
4	阿部大介	Skin of Tree13	2015（平成27）年	119.0×78.5	木、油性インク、紙
5	押江千衣子	萬葉	2012（平成24）年	162.0×194.0	オイルパステル、オイル、 キャンバス
6	渡辺泰幸	土の音	2001（平成13）年	サイズ可変	陶土
7	阿曾藍人	土の織物	2015（平成28）年	60.0×180.0	陶土、布、木
8	阿曾藍人	土の織物	2015（平成28）年	60.0×60.0	陶土、布、木
9		栗田宏一ワークショップ「みんなで 持ち寄る 1000 色の土」より	2005（平成18）年	—	土、瓶
10	川井昭夫	Photo-painting 叢 07-1-17	2007-08 （平成19-20）年	40.0×40.0× 3.5	油彩・ミクストメディア、 FRP パネル
11	川井昭夫	麻布・square 08-2	2008（平成20）年	40.0×40.0× 3.5	アクリル絵の具、キャンバス
12	篠原芳子	correspondence no sender's name- 01	2016（平成28）年	102.0×73.0	カラーペンシル、顔料、紙、 パネル
13	笹谷晃生	草本	2010（平成22）年	サイズ可変	鉄
14	太田三郎	SEED PROJECT from MINOKAMO	2001（平成13）年	21.0×11.8 （20点）	コピー、種子、和紙
15	大北利根子	作品	1998（平成10）年	64×240×220	グラスファイバー
16	大久保英治	天と地の間に みのかも	2000（平成12）年	27.0× 21.5 （3点）	ペン、紙

【展示ホール／緑のホール】

17	平川祐樹	雷の樹-185年の落下	2013（平成25）年	—	フルHD、サイレント、 2分間ループ
----	------	-------------	-------------	---	-----------------------

● 作品の所蔵先は美濃加茂市民ミュージアム、no.7《土の織物》のみ作家蔵

● No.17 は2月23日・24日 3月1日・2日・9日・16日・22日・23日は緑のホールで、他の日は展示ホールのモニターで上映。

【美術工芸展示室】林武史ドローイング展

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法・材質
1	林武史	無題 1	1983 (昭和 58) 年	45.5×65.3	鉛筆、渋紙、柿渋
2	林武史	宴・宴のためのドローイング A	1986 (昭和 61) 年	60.0×42.0	鉛筆、アクリル、コンテ、ジェッソ、紙
3	林武史	呼吸	1990 (平成 2) 年	62.5×80.2	墨、鉛筆、コンテ、和紙
4	林武史	無題	1994 (平成 6) 年	88.0×62.0	ジェッソ、鉛筆、墨、和紙
5	林武史	無題	1994 (平成 6) 年	88.0×62.0	ジェッソ、鉛筆、墨、和紙
6	林武史	無題	1994 (平成 6) 年	88.0×62.0	ジェッソ、鉛筆、墨、和紙
7	林武史	無題のためのドローイング	1993 (平成 5) 年	61.0×88.0	墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
8	林武史	無題	1993 (平成 5) 年	88.0×63.0	墨、鉛筆、ジェッソ、和紙
9	林武史	かさねることのためのドローイング	1997 (平成 9) 年	30.5×43.3	アクリル、墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
10	林武史	かさねることのためのドローイング	1995 (平成 7) 年	43.7×31.3	アクリル、墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
11	林武史	ならぶことのためのドローイング	1998 (平成 10) 年	42.0×61.5	墨、コンテ、ジェッソ、和紙
12	林武史	ならぶことのためのドローイング	1998 (平成 10) 年	24.5×33.2	鉛筆、墨、ジェッソ、和紙
13	林武史	ならぶことのためのドローイング	1998 (平成 10) 年	24.5×33.0	鉛筆、墨、ジェッソ、和紙
14	林武史	きざむことのためのドローイング	1994 (平成 6) 年	61.5×44.5	墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
15	林武史	きざむことのためのドローイング	1994 (平成 6) 年	62.0×44.7	墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
16	林武史	むすぶことのためのドローイング	1999 (平成 11) 年	35.4×57.2	墨、鉛筆、紙
17	林武史	歩く人のためのドローイング	2004 (平成 16) 年	32.5×49.0	鉛筆、パステル、墨、ジェッソ、和紙
18	林武史	庭の仕事のためのドローイング	2014 (平成 26) 年	39.0×54.4	ボールペン、モデリングペースト、紙
19	林武史	無題	1993 (平成 5) 年	82.5×61.5	アクリル、鉛筆、モデリングペースト、和紙
20	林武史	Untitled 93-01	1993 (平成 5) 年	88.0×60.5	墨、コンテ、鉛筆、ジェッソ、和紙
21	林武史	林間のためのドローイング (1)	2003 (平成 15) 年	86.5×62.5	鉛筆、ジェッソ、和紙
22	林武史	林間のためのドローイング (2)	2003 (平成 15) 年	86.5×61.5	鉛筆、ジェッソ、和紙
23	林武史	水田のためのドローイング	2000 (平成 12) 年	61.0×86.5	墨、鉛筆、ジェッソ、和紙
24	林武史	水田のためのドローイング	2001 (平成 13) 年	53.2×60.0	墨、鉛筆、色鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
25	林武史	水田のためのドローイング	2000 (平成 12) 年	59.0×43.0	墨、鉛筆、ジェッソ、モデリングペースト、和紙
26	林武史	Fontaine ためのドローイング	2001-02 (平成 13-14) 年	48.0×65.5	鉛筆、墨、透明水彩、ジェッソ、和紙

27	林武史	雨の記憶	2008（平成 20）年	54.3×78.6	色鉛筆、鉛筆、紙
28	林武史	山のかたち 赤	2020（令和 2）年	56.0×49.0	ボールペン、紙
29	林武史	山のかたち 黒	2020（令和 2）年	49.0×56.0	ボールペン、紙
30	林武史	山のかたち 青	2020（令和 2）年	56.0×49.0	ボールペン、紙
31	東京藝術大学 美術学部彫刻 科第二研究室	リレードローイング	2020（令和 2）年	—	ミクストメディア、紙

【参考／企画展示室】

「芸術と自然」の現代美術レジデンスプログラムに関係する収蔵品から、作家が当館で滞在制作によって制作した作品を中心に本展の出品作を選定した。このプログラムの特徴や成果を再考し、4章の構成で各作家の取り組みと作品を紹介した。展示作業には一部、アートボランティアも参加した。

◆「ミュージアムの森で」作家が長期にわたって当館に滞在し、制作した作品群

- ・四季ごとに来館した小本章が、工芸室付近にキャンバスを据えて制作した絵と写真の組作品
- ・当館を囲む森で拾った古木や切り倒した大木を版にして、阿部大介が制作した版画
- ・押江千衣子が約3か月間滞在し、森に自生するアオハダの木をモチーフにアトリエで描いた絵画
- ・ひのき広場附近に立っていた、雷が落ちて枯れた木の伐採に平川祐樹が立ち合い、撮影した映像作品

◆「美濃加茂の作家、美濃加茂の土」土を主題にした作品を制作する作家を紹介

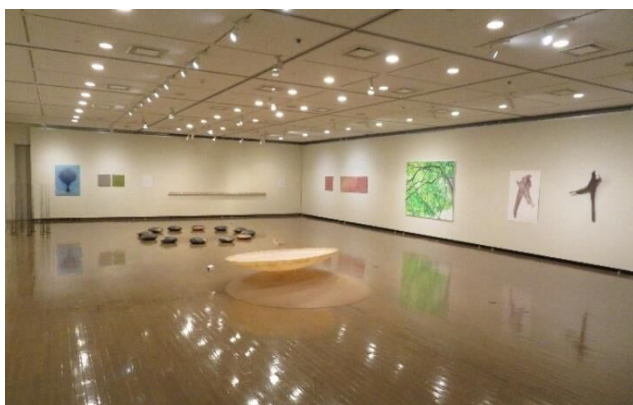
- ・土の音を主題にワークショップを開催した当市出身の渡辺泰幸の、叩いて音を楽しめる陶の作品
- ・市内に移住し工房を構える阿曾藍人の、各地の土で作る陶板作品のシリーズを再構成して展示
- ・各地で土を採集し展示する栗田宏一が当館で開催した、市民参加の1000色の土の展示を一部再現

◆「自然からの着想、フィールドワーク」県外から招聘した自然や植物を主題にした作品

- ・倒れた雑草の写真の上から同色の絵具で叢を描く富山市在住の川井昭夫の絵を麻布の作品と対で展示
- ・当館での滞在制作の最初期に、美濃加茂をイメージして描いた京都市在住の篠原芳子の絵画
- ・植物や環境を主題に鉄等で彫刻を制作する神戸市在住の笹谷晃生の、植物をモチーフにした作品
- ・美濃加茂で拾い集めた植物の種子を使い、切手シート状の版画にした太田三郎の作品

◆「彫刻シンポジウムの流れと森の野外彫刻」現代美術レジデンスプログラムは1988-97年に開催した美濃加茂彫刻シンポジウムの流れを継承している。当時の参加作家や森に点在する野外彫刻を紹介。

- ・95年のシンポジウムで東図書館に円盤を重ねた形の彫刻を設置した大北利根子の館蔵作品
- ・88年のシンポジウムに参加した大久保英治が、当館の開館記念展で設置したランドアートのスケッチ



〔企画展示室 北／西 壁面〕



〔企画展示室 東／南 壁面〕

【参考／美術工芸展示室】

2020 年、現代美術レジデンスプログラム「林武史 石の記憶、泥の声」の開催以降、当館では、作家より展覧会出品作を含めたドローイングの寄贈・寄託の申し出を受け、44 作品を収蔵する。作家が作品発表を始めた 80 年代以降の歩みを示すこれらの作品群から、本展では 30 点を展示した。

各地で大型の石彫を手掛ける作家は、様々な段階でドローイングを描く。作り始める前の抽象的な絵、石の外形を線で描いた具体的な素描、空間把握への意識など、背景には描こうとした意志と理由がある。また実際に作られた石の作品を想起するとき、作家の制作への衝動や目指したイメージがドローイングの中に見えてくる。重厚で力強く伸びやかなドローイングは、彫刻家・林武史の思考を様々な伝えるものである。そこで本展ではドローイングと対照できるよう、個展の会場風景や彫刻の写真を併せて掲示した。

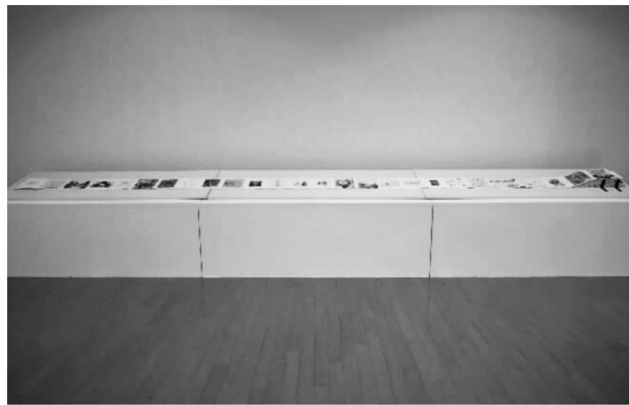
最後に、2020 年の林武史展準備期間中のコロナ禍に東京藝術大学の教え子と行ったリレー・ドローイングの原画を展示。会期中に 5 回、開く頁を変えて全 149 頁を公開した。林が描いた最初の絵をグループ LINE で共有し、次の人が前の人の色や形や素材、発想を引き継ぎ描く手法で、制作は 9 月の林武史展の展示作業の開始日直前まで続けられた。林が発信した参加者の呼びかけの文章もパネル掲示した。描く手の動きや勢いが感じられるドローイングの数々から、様々な局面で生まれてくる作家の創意や発想の豊かさが伝わることを願いつつ、全体として 2020 年の林武史展の開催までを回顧するものとした。

〔リレードローイング 各頁の展示期間〕

2月22・23・24・26日			2月27・28日・3月1・2・4日			3月5・6・7・8・9日			3月11・12・13・14日			3月15・16・18・19日			3月20・21・22・23日		
No.	日付	作家名	No.	日付	作家名	No.	日付	作家名	No.	日付	作家名	No.	日付	作家名	No.	日付	作家名
1	2020.5.7	林武史	26	2020.5.27	神田茉莉乃	51	2020.6.11-12	川島大幸	76	2020.7.13	清水啓一郎	101	2020.8.7	丸山喬平	126	2020.9.1	林岳
2	2020.5.8	中本那由子	27	2020.5.28	伊勢崎寛太郎	52	2020.6.13	宮原嵩広	77	2020.7.14	中澤安奈	102	2020.8.8	小塚照己	127	2020.9.2	植松美月
3	2020.5.9	丸山喬平	28	2020.5.28	伊勢崎寛太郎	53	2020.6.14	野畑常義	78	2020.7.15	藤原彩人	103	2020.8.9	中本那由子	128	2020.9.3	島田佳樹
4	2020.5.10	森山泰地	29	2020.5.29	中本那由子	54	2020.6.15	大野綾子	79	2020.7.16	林武史	104	2020.8.10	川島大幸	129	2020.9.4	島田佳樹
5	2020.5.10	島田佳樹	30	2020.5.29	中本那由子	55	2020.6.16	丸山喬平	80	2020.7.17	大野綾子	105	2020.8.11	林武史	130	2020.9.5	丸山喬平
6	2020.5.12	植松美月	31	2020.5.30	林岳	56	2020.6.17	島田佳樹	81	2020.7.18	名倉達了	106	2020.8.12	伊勢崎寛太郎	131	2020.9.6	林武史
7	2020.5.13	林岳	32	2020.5.30	林岳	57	2020.6.18	山崎良太	82	2020.7.19	川島大幸	107	2020.8.13	丸山喬平	132	2020.9.7	中本那由子
8	2020.5.14	伊勢崎寛太郎	33	2020.5.31	森山泰地	58	2020.6.19	中本那由子	83	2020.7.20	中本那由子	108	2020.8.14	曾根麻衣	133	2020.9.8	江藤祐一
9	2020.5.15	轟木麻左臣	34	2020.5.31	森山泰地	59	2020.6.20	江藤祐一	84	2020.7.21	丸山喬平	109	2020.8.15	宮原嵩広	134	2020.9.9	名倉達了
10	2020.5.16	山崎良太	35	2020.6.1	植松美月	60	2020.6.21	林岳	85	2020.7.22	中澤安奈	110	2020.8.16	藤原彩人	135	2020.9.10	石井琢郎
11	2020.5.17	神田茉莉乃	36	2020.6.1	植松美月	61	2020.6.22	伊勢崎寛太郎	86	2020.7.23	林武史	111	2020.8.17	清水啓一郎	136	2020.9.11	小塚照己
12	2020.5.18	根本祐社	37	2020.6.2	轟木麻左臣	62	2020.6.23	宮城島万莉子	87	2020.7.24	曾根麻衣	112	2020.8.18	森山泰地	137	2020.9.12	根本祐社
13	2020.5.19	岸本達郎	38	2020.6.2	轟木麻左臣	63	2020.6.24	森山泰地	88	2020.7.25	林岳	113	2020.8.19	清水啓一郎	138	2020.9.13	根本祐社
14	2020.5.20	曾根麻衣	39	2020.6.3	宮城島万莉子	64	2020.6.25	名倉達了	89	2020.7.26	山崎良太	114	2020.8.20	丸山喬平	139	2020.9.14	江藤祐一
15	2020.5.21	川島大幸	40	2020.6.3	宮城島万莉子	65	2020.6.26	清水啓一郎	90	2020.7.27	森山泰地	115	2020.8.21	山崎良太	140	2020.9.15	川島大幸
16	2020.5.22	宮城島万莉子	41	2020.6.4	島田佳樹	66	2020.6.27	植松美月	91	2020.7.28	野畑常義	116	2020.8.22	岸本達郎	141	2020.9.16	小塚照己
17	2020.5.23	林武史	42	2020.6.4	島田佳樹	67	2020.6.28	轟木麻左臣	92	2020.7.29	石井琢郎	117	2020.8.23	川島大幸	142	2020.9.17	川島大幸
18	2020.5.23	林武史	43	2020.6.5	曾根麻衣	68	2020.6.29	藤原彩人	93	2020.7.30	丸山喬平	118	2020.8.24	宮城島万莉子	143	2020.9.18	森山泰地
19	2020.5.24	岸本達郎	44	2020.6.5	曾根麻衣	69	2020.6.30	丸山喬平	94	2020.7.31	江藤祐一	119	2020.8.25	中澤安奈	144	2020.8.2	野口真美子
20	2020.5.24	岸本達郎	45	2020.6.6	山崎良太	70	2020.7.1	曾根麻衣	95	2020.8.1	藤原彩人	120	2020.8.26	曾根麻衣	145	2020.8.3	HUANG YU
21	2020.5.25	丸山喬平	46	2020.6.6	山崎良太	71	2020.7.1	根本祐社	96	2020.8.2	宮城島万莉子	121	2020.8.27	林武史	146	2020.8.5	亀田満紀史
22	2020.5.25	丸山喬平	47	2020.6.7	川島大幸	72	2020.7.3	岸本達郎	97	2020.8.3	轟木麻左臣	122	2020.8.28	宮原嵩広	147	2020.8.5	高橋瑠璃
23	2020.5.26	根本祐社	48	2020.6.7	川島大幸	73	2020.7.4	小塚照己	98	2020.8.4	島田佳樹	123	2020.8.29	江藤祐一	148	2020.8.6	茂木淳史
24	2020.5.27	根本祐社	49	2020.6.9-10	森山泰地	74	2020.7.5	林武史	99	2020.8.5	伊勢崎寛太郎	124	2020.8.30	根本祐社	149	2023.8.7	林武史
25	2020.5.27	神田茉莉乃	50	2020.6.10	石井琢郎	75	2020.7.12	小塚照己	100	2020.8.6	林武史	125	2020.8.31	丸山喬平			
26	2020.5.27	神田茉莉乃	51	2020.6.11-12	川島大幸	76	2020.7.13	清水啓一郎	101	2020.8.7	丸山喬平	126	2020.9.1	林岳			



〔林武史ドローイング展〕



〔リレードローイング〕

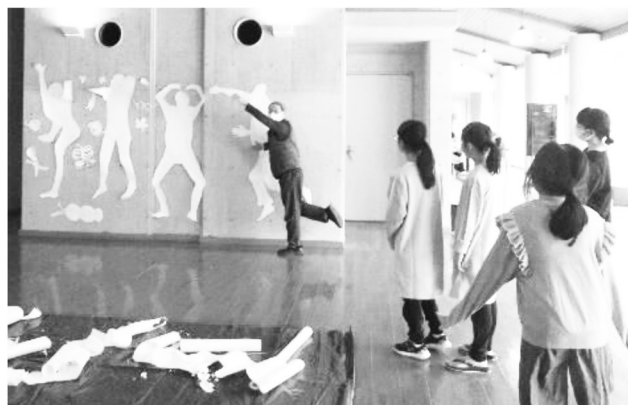
【参考／展示ホール・関連企画】

展示ホールでは現代美術レジデンスプログラムの取り組みを年度毎に 1 枚にまとめたパネル計 24 枚を展示した。また、各年度で作成してきた記録集を展示した。平川祐樹の映像は、森を背景に鑑賞できるよう展示ホールの窓際にモニターを設置した。会期中の休日は同じ作品を緑のホールのスクリーンで上映した。

関連企画の「大北利根子ワークショップ」では、参加者同士が協力して自分のシルエットを白い紙で象りし、その影を遊ばせるようにエントランスホールの壁面に飾し、皆で鑑賞した。「阿曾藍人アトリエ見学」では、作家の案内で工房を見た後、野焼きの仕上げの段階と灰の中から作品を引き出す場面に立ち会った。会期中の秋分の日にはナイトミュージアムを実施し、真西に向かい立つ彫刻「にしみまど」（小島久弥作、97 年のシンポジウムで当館敷地内に設置）から西の空に沈む夕日を見るイベントを行った。



〔展示ホール〕



〔大北利根子ワークショップ〕



〔阿曾藍人アトリエ見学〕



〔ナイトミュージアム「にしみまど」〕

【アンケート結果】（全 13 枚・複数回答あり）

選択設問から

① 展示の資料・作品の見やすさに（配置、明るさ、空間など）
にご満足いただけましたか？

・満足	9
・ほぼ満足	2
・ふつう	1
・やや不満	1
・不満	0
計	13

② 展示の資料・作品のわかりやすさ（解説、説明、パネルなど）
にご満足いただけましたか？

・満足	8
・ほぼ満足	2
・ふつう	2
・やや不満	0
・不満	1
計	13

③ 資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られ
ましたか？

・満足	10
・ほぼ満足	1
・ふつう	1
・やや不満	0
・不満	1
計	13

自由記述から

- ・走り書きしていると思ったが、絶妙なバランスで構成されていておもしろく感じた。
- ・ドローイングの言葉から解説し、展示を広くの方に来館されることを期待します。※自然、生命は少し理解できますかね。
- ・林先生のお話を直に聞けてとても面白かったです。芸術家の描く一線は本当に美しいものだと感じました。頭の中に広がるイメージはどんな風に広がっていくのだろう。話を聞いてから見直すとますます身近に親しみやすくなってきました。ありがとうございました。美術館の中にドロ（本物！）の水田をつくろうという発想に驚きますが、とてもユニークで面白い。それを許したこの方々もユニークで面白い。このユニークさが魅力です。
- ・一つ一つの作品がすごく魅力的で感動した。施設もきれいですごく心地良く見ることができた。先生から直接作品の説明があり、すごく楽しかった。
- ・少しマニアックかもしれませんが、私にとってはとても面白い展覧会でした。今後もぜひ継続してほしい。
- ・リレドローイングの続きを見たいのでまた来ます。文化の森のタカラモノをたくさん見せて下さってありがとうございます。
- ・6-同じ形でもいろいろな音が出ておもしろかった。9-土の色がこんなにたくさんあることにびっくりした。14-草の種を見分けるのにすごいと思った。道端で生えている草の種がこんな形をしていることがわかって勉強になった。ドローイングとは分かりやすい解説があると良い。「歩く人」の作品が参道に横たわっていたのを見て、参道のまん中は神様が通る所なので端を歩くようにと教えられた。許可されたのが不思議です。じっくり見ることができました。ありがとうございました。
- ・全くわからない！芸術って何なのでしょう？感動ゼロ！
- ・よかった。
- ・にしみまどで夕日を見られてよかったです。
- ・清潔感があって良かった。